



# 豊橋技術科学大学

## 大学と飯田市との関わり

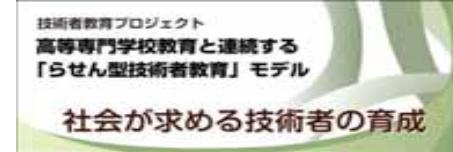
2012.1.28 大貝 彰



教育プロジェクト：  
「らせん型技術者育成キャリア教育  
プロジェクト」

研究プロジェクト：  
「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略フ  
ラン研究」

豊橋技術科学大学 大貝先生 ①



### ①飯田を知ろうプロジェクト

- ・建築・都市に関わる地域の現状と課題について大学と地域で意見交換を行う定例会を開催、新規プロジェクトを考える。
- ・想定されるテーマ（中心市街地活性化、水環境保全、中山間地域問題、耐震化、歴史と文化、etc.）

### ②高専連携教育プロジェクト

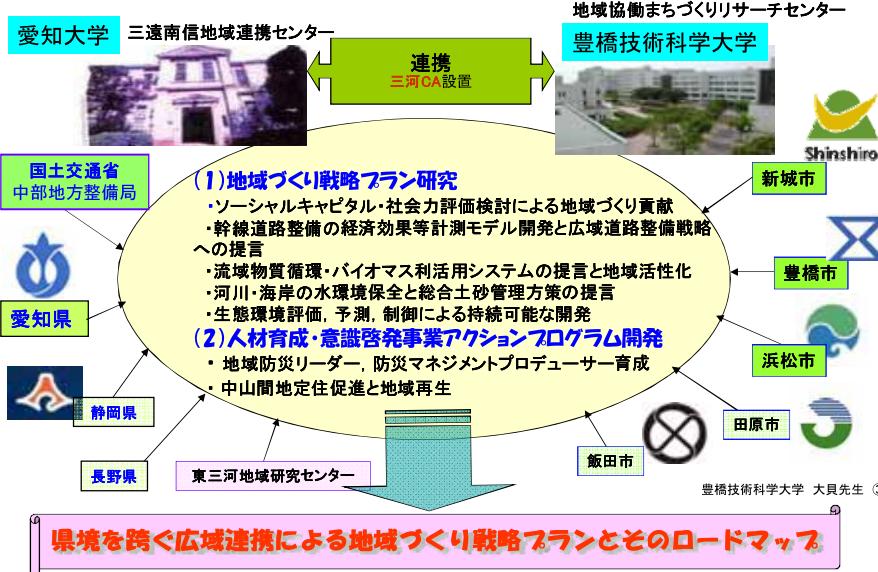
- ・山から海までの一貫した土砂管理
- ・河川の水質汚濁とその流出源

南信州・飯田を拠点に、近隣の工業高等専門学校とともに、地域の課題を題材に、地域の皆さんと協働で教育・研究を実践していく、その拠点として、飯田工業高等学校同窓会（財団法人飯工会）の爽風会館に。

豊橋技術科学大学 大貝先生 ②

平成18年度～22年度に実施

### 三遠南信をフィールドとした学際的研究プロジェクト 「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略フラン」概略



### プレゼン用自己紹介シート

豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系

教授・大貝 彰

### 研究領域：都市・地域計画

#### ・計画支援システムの研究開発

- 防災まちづくり支援WebGISの開発
- OVRとWebGISを連動させた空間イメージ共有支援ツール開発
- 都市・地域空間及び土地利用のシミュレーションモデル開発



#### ・広域空間計画の理論化

- 広域地域の居住地凝集化と社会的サービス施設の拠点化
- 中山間地域の基礎的生活サービス施設の拠点化

豊橋技術科学大学 大貝先生 ④

## プレゼン用資料1

### 飯田との関わりや活動について

- 平成18年度～22年度プロジェクト研究「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」、三遠南信サミットにも参加。
- 平成22年度からは、キャリア教育プログラム開発を目的とした「技術者教育プロジェクト」が始り、飯田工業高校同窓会館を利用したサテライトラボを立ち上げ。
- 今年度はその一環で、長野高専の先生と共同で教育プロジェクトを実施。⇒約20名の本学都市計画系学生と高専生が3つのグループに分かれ、飯田市中心市街地を対象に、リンゴ並木の活性化を考えるシャレットワークショップを実施した。



## プレゼン用資料2

### 飯田の評価や価値について

- 地理的条件によって育まれた(?)自立性と独自性、そこから生まれる地域づくり・都市づくりの先進性
  - 南信州広域連合、定住自立圏構想、環境モデル都市
  - 公民館活動・地育力の人づくり ⇒まちづくりの基盤
  - S. 22大火、S. 36土砂災害 ⇒都市基盤形成の転換点
- 持続可能な地域づくりの観点からみて、興味深い研究対象(でもほとんどやってません。すみません)
- 将来像としての空間イメージ(地域空間概念図、将来地域空間構想)がない。弱い。

豊橋技術科学大学 大貝先生 (6)

## プレゼン用資料3

### 飯田における今後の関心事項

#### リニア新幹線：

国土空間構造の大きな変化の中で、飯田・下伊那地域は？？（活かすも殺すも地域次第）

⇒広域連合への期待（多主体間ネットワークの協議型ガバナンス構築）

飯田市の都市空間構造（丘の上と周辺、リニア駅）をどう考えるべきか？？

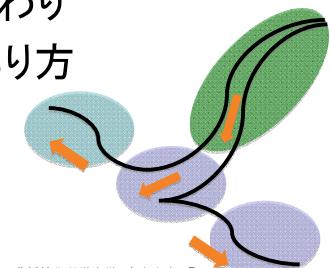
⇒持続可能な都市地域空間戦略と空間イメージ（広域＋中心部）の共有化

豊橋技術科学大学 大貝先生 (7)

豊橋技術科学大学大学 工学部  
建築・都市システム学系 教授 青木伸一

### 山から海に至る天竜川流域圏の環境

- ・国土環境の管理
- ・流域圏における山と海の関わり
- ・防災面から見た流域圏のあり方
- ・上下流の連携
- ・水、土砂のフロー型管理



豊橋技術科学大学 青木先生 (1)

## 飯田との関わりや活動について

- ・技術者教育プロジェクト
- ・飯田サテライトラボ
- ・高専との連携の場
- ・天竜川研究



豊橋技術科学大学 青木先生 ②

## 飯田の評価や価値について

- ・自然環境
- ・人と自然の距離感
- ・行政の活力
- ・市民の活力



豊橋技術科学大学 青木先生 ③

## 飯田における今後の関心事項について

- ・変わらない飯田
- ・新しい学びの形
- ・新しい大学のあり方
- ・下流への発信・下流との連携

豊橋技術科学大学 青木先生 ④

## プレゼン用自己紹介シート

豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系  
准教授 浅野純一郎

## ご自身の研究領域などについて

- ・地方都市を対象とした土地利用計画研究
  - ・持続可能性
  - ・地区レベルのまちづくり
  - ・郊外土地利用計画
- ・国内地方都市の近代都市計画史研究
  - ・初期法定都市計画の実際
  - ・戦災復興都市計画とその遺産の現状

豊橋技術科学大学 浅野先生 ①

## プレゼン用資料1

### 飯田との関わりや活動について

- ・郊外ロードサイドの商業立地研究調査(1994～1995年)
- ・郊外ロードサイド土地利用の持続性調査(2006年度:長野県受託)
- ・りんご並木界隈のシャレットワークショップ(2011年度)

豊橋技術科学大学 浅野先生 ②

## プレゼン用資料2

### 飯田の評価や価値について

- ・都市のコンパクト性
- ・斜面都市と景観
- ・市民ホスピタリティ
- ・飯田大火の復興インフラ
- ・持続的な中活活動の蓄積
- ・etc.



豊橋技術科学大学 浅野先生 ③

## プレゼン用資料3

### 飯田における今後の関心事項について

- ・中活活動の今後の展開
- ・南信地域における飯田の役割
- ・地域レベルでの持続可能なまちづくりの進展



豊橋技術科学大学 浅野先生 ④

飯田大学連携会議「学輪IIDA」第2回全体会

2012/01/28

松島史朗(まつしましろう)

国立大学法人豊橋技術科学大学

建築・都市システム学系 教授

ハーバード大学博士(デザイン学)、同建築修士

### 研究概要

- 景観整備と地域振興の研究と実践－愛知県・豊川稲荷門前町－
- スマートデザイン－デザインテクノロジーを使った設計と生産の研究－
- ロボット・キャンパス－人間とロボット共生空間のデザイン手法開発－
- 遠隔地教育－遠隔技術を使用した教育プログラム・環境についての研究－
- 建築設計論の研究
- プロジェクトマネジメントの研究 他

shiro matsushima

豊橋技術科学大学 松島先生 ①

## これまでの研究教育内容



豊橋技術科学大学 松島先生 ②

shiro matsushima

## 飯田との関わり・活動

将来、飯田工業高校が飯田長姫高校と統合したとき、既存校舎の新たな利用方法として「飯田インター大学(仮)」の提案がなされ、飯田市の自治やコミュニティを守るネットワーク型(21C型)の大学の構築の可能性が検討されている。

そこで、様々な大学の先生方や学生たちに、もう一つの研究室として利用してもらえるように、**研究活動が行える研究室、交流や展示、宿泊施設等**を装備した施設へと展開する方策について、検討することになった。

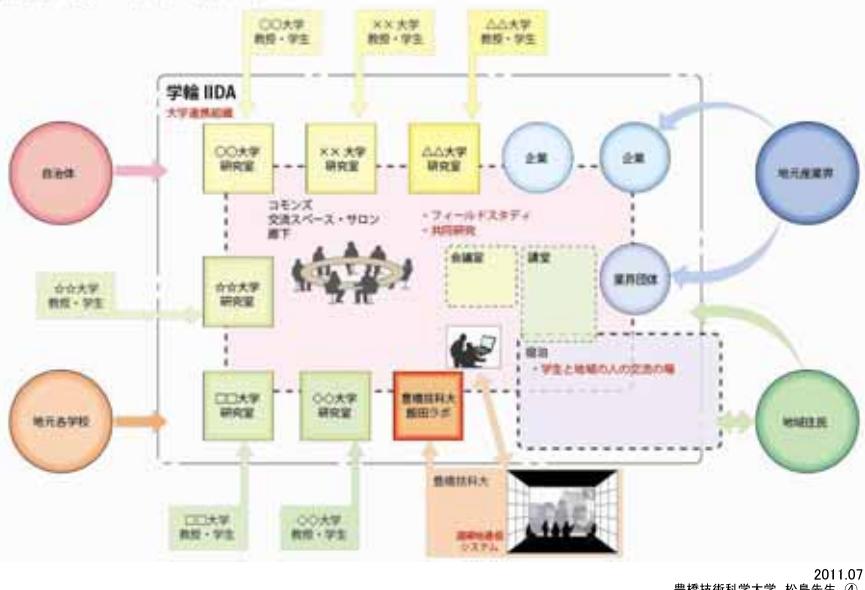
松島研究室では、既存校舎を新たなサテライトラボとする場合の改修方法について、飯田市の方と協力した素案の検討をしている。

- 2011年5月 打ち合わせ(豊橋技術科学大学)
- 2011年6月 現地調査(飯田工業高校)
  - 飯田市へ資料提出
- 2011年9月 打ち合わせ(豊橋技術科学大学)
  - 飯田市へ資料提出



豊橋技術科学大学 松島先生 ③ 打ち合わせ(豊橋技術科学大学)

## 学輪 IIIDA (仮) コンセプトイメージ



shiro matsushima

## 飯田の評価・価値

現段階では、飯田工業高校を改修する場合の素案について、現地調査やコンセプト案の検討が協力して進められている。

既存校舎について(建物調査より)

平成元年の建築で、校舎自体はまだ新しく、耐震的にも十分に利用可能である。

新たなサテライトラボとする場合に必要な、多人数収容の講義室、多目的室や会議室などにも利用できる教室が幾つかあるので、大きな改修なく転用が可能と思われる。



貸し研究室、宿泊施設、共同生活施設については、水まわりの改修などに多少、費用と時間がかかることが予想される。

既存の庭園などは、そのまま憩いの場として使用できる。

豊橋技術科学大学 松島先生 ⑤

既存校舎 庭園

## 飯田における今後の関心事項

今後は、豊橋技術科学大学、飯田市をはじめとする関係機関(町村・長野県など)、参加大学の意見も取り入れて改修の素案を作成する。また、地域の方々の声も積極的に取り入れていきたいと考えているので、話し合いの場も設ける。

松島研究室としては、今後の検討状況に合わせて、提案・模型などを用いて具体性を示し、改修した施設のイメージの共有を促す。

shiro matsushima

豊橋技術科学大学 松島先生 ⑥

## 法政大学ゆかりの文化人の飯田・下伊那との歴史的関係

### ①椋鳩十(本名:久保田彦穂)

喬木村阿島出身  
飯田中学校卒業後、法政大学で森田草平・豊島与志雄らに文学を教わる

在学中に詩集出版と学生結婚

### ②西尾実(国語学者)

阿南町帯川出身。下伊那教育会館にも胸像  
法政大学で教鞭を執り、名誉教授に

### ③森田草平

夏目漱石の門下生、法政大学元教員  
晩年は、飯田市・阿智村で過ごし、長岳寺で没



椋鳩十

法政大学 西澤先生 ② 西尾実  
© Copyright Hosei University

HOSEI

## 法政大学と飯田との関わりと自己紹介

学輪IIIDA 第2回全体会

2012年 1月 28日

経済学部 西澤 栄一郎

法政大学 西澤先生 ①

HOSEI

## 飯田市との関わり

### ■教育

- 人間環境学部:毎年8月にフィールドスタディを10年以上飯田で実施
- 国際文化学部:スタディ・ジャパンプログラムを飯田で実施
- 経済学部:西澤ゼミがフィールドワークを飯田で実施
- キャリアデザイン学部:毎年8月にインターンシップを飯田で実施  
また、「地域活性論」(他、9学部に公開)の履修生が、昨年8月に飯田市のフィールドスタディに参加

### ■調査・研究

- おひさま進歩エネルギー株式会社が法政大学「第9回イノベーション・ポリシー賞」に(2001.11.11)
- 多数の教員が調査・視察に飯田市を訪問

法政大学 西澤先生 ③

© Copyright Hosei University

■専門分野

環境政策論、農業経済学

■研究領域

- EU・アメリカの農業・農村における環境問題  
とくに、水環境政策、バイオマス利用など

(個人的には飯田と40数年来の関わりがありますが…)

法政大学 西澤先生 ④

© Copyright Hosei University

飯田との関わりや活動

- ・西澤ゼミの飯田での活動(2008～)
  - ・8月に訪問し、調査、翌2月or3月に現地報告会
  - ・地域貢献を目標に、提案型の活動を目指す
  - ・2008年：ワーキングホリデー 農作業体験と農家への聞き取り
  - ・2009年：環境モデル都市 CO<sub>2</sub>削減対策の調査と提案
  - ・2010年：野生鳥獣害 聞き取りと農家組合アンケート
  - ・2011年：野生鳥獣害 南信濃八重河内での調査と草刈り体験



現地での意見交換会

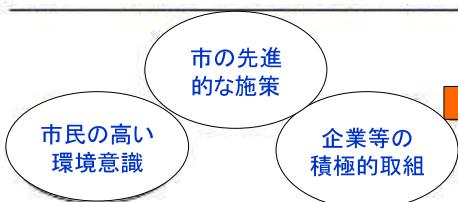


昨年までの報告書



法政大学 西澤先生 ⑤

飯田の評価・価値(環境に関して)



「明日の環境首都賞」

受賞(2011)

ゼミ活動から感じること

- 調査の受け入れ体制が充実  
市役所・各種機関・集落・農家
- アンケートへの高い回答率  
2009.10 市内1,000世帯に郵送 返信398  
2010. 9 全497の農家組合に配布 回答184 (37%)
- 学生の感じた遠山郷の魅力(2011年度の報告書から)  
「食の魅力、土地の魅力、催し物の魅力、そして、人の魅力」

法政大学 西澤先生 ⑥

© Copyright Hosei University

飯田における今後の関心事項

- 環境改善への取り組み  
環境モデル都市行動計画 2050年に温室効果ガス70%削減
- 参加型研究・参加型調査のフィールドとして  
地域の人々と研究者が協働してイノベーションを起こす

法政大学 西澤先生 ⑦

© Copyright Hosei University

## プレゼン用自己紹介シート

法政大学 国際文化学部  
教授 高柳俊男

### 自分の研究領域などについて

- ・朝鮮近現代史
- ・とくに、近現代の歴史の中で、朝鮮半島の外で暮らすに至った人々を主対象に
- ・なかでも、在日朝鮮人(総称)をめぐる歴史や文化を研究
- ・広くは、移民現象や多文化共生全般に関心

法政大学 高柳先生 ①

## プレゼン用資料1

### 飯田との関わりや活動について

<個人として>

- ・1990年代、清川紘二氏の主宰する「『満蒙開拓団』調査研究会」のメンバーとして、数回来飯

<学部として>

- ・来年度から、飯田・下伊那を舞台に、留学生を主対象に「SJ国内研修」(夏休みに8泊9日)を実施
- ・それに向けた事前学習授業(2単位)も新規開講
- ・上記2つの担当者として、現在研修プログラム・授業シラバスの作成、関連資料の収集などに奔走中
- ・昨年度と今年度、3泊4日で「プレ研修」を実施

法政大学 高柳先生 ②

## プレゼン用資料2

### 「SJ国内研修」と事前学習で学ぶ内容

#### 1 この地域の国際関係・民族間関係

満州移民／飯田線建設における朝鮮人労働者・アイヌの力ネトたち／平岡ダム建設における朝鮮人・中国人・欧米人俘虜／近年増加しているブラジル人、ほか

#### 2 この地域の文化

人形浄瑠璃・歌舞伎などの伝統文化／郷土雑誌『伊那』／活発な公民館活動／法政大学ゆかりの椋鳩十・西尾実、ほか

#### 3 この地域の自然との共生や都市農村交流

体験学習としての大平宿の活用／山村留学、ほか

\*事前学習授業を通じて、各人に自分なりのテーマを決めてもらい、それに沿って重点的に研修を進める

法政大学 高柳先生 ③

## プレゼン用資料3

### 飯田の評価や価値について

- ・歴史や文化の重みを感じさせる地域
- ・住民自身がよりよきまちをめざす意欲をもった地域(ムトスのまちづくり)
- ・記録を丹念に残す地域(市立図書館の郷土文献、歴史研究所)
- ・「負の歴史」にも向き合おうとする地域(満州移民体験の記録化)
- ・総じて、「学びの場」としての魅力と可能性に富む地域



学部資料室の研修関連文献から(約500点)

法政大学 高柳先生 ④

## プレゼン用資料4

### 飯田における今後の関心事項について

- ・ 飯田の多文化共生、多民族共生の史実の更なる掘り起しと、今後の展開
- ・ 飯田を一括りにせず、飯田市の成り立ちを踏まえ、旧町村ごとの歴史・文化・産業・アイデンティティの違いも含めて、きめ細かく見ていくこと
- ・ 下伊那全体の中で、飯田を考えていくこと  
(平谷村や売木村から飯田を眺める視点も必要)

法政大学 高柳先生 ⑤

## プレゼン用自己紹介シート

明治大学 副学長・社会連携機構長 福宮賢一  
 商学部長 横井勝彦 リバティアカデミー長 大友純  
 商学部教授 小川智由 商学部教授 水野勝之  
 研究推進員 福岡英典

### 研究領域などについて

- ・ 地域連携研究
- ・ ソーシャルビジネスの研究
- ・ 震災復興に関する研究
- ・ 経済教育



成果を重視

明治大学 ①

## プレゼン用資料1

### 飯田との関わりや活動について

- ・ 飯田産業技術大学
- ・ 文部科学省現代GPでの研究(2007年度)  
南信州ブランド構築に向けた研究  
商学部小川智由ゼミ、水野勝之ゼミ
- ・ 文部科学省社会人学び直しGPでの取り組み(2007年度)  
総まとめの本を製作中
- ・ 文部科学省就職GPでの研究(2011年度)

明治大学 ②

## プレゼン用資料2

### 飯田の評価や価値について

- ・ 南信州ブランドつくりの上手さ
- ・ 大学を巻き込む上手さ
- ・ 文化の豊かさ
- ・ 産業の豊かさ
- ・ 枠を超えたダイナミックさ

明治大学 ③

### プレゼン用資料3

#### 飯田における今後の関心事項について

- ・就職GP後継事業での活動  
「飯田フィールドスタディ」への参加
- ・学輪IIDAへの参加
- ・社会人学び直しGPから生まれた  
NPO法人「FOP」の支援  
→社会人学び直しGP受講者のその後をまとめた本を出版

明治大学 ④

### プレゼン用自己紹介シート

名城大学 都市情報学部教授  
国際交流センター長 福島 茂

#### ご自身の研究領域などについて

- ・専門：都市計画、地域政策、地域開発
- ・グローバル化や高齢化・人口減少などの社会経済の変動と計画論との関わりについて研究しています。
- ①アセアン大都市圏周縁部の居住形態の変動
- ②国際ビジネスセンター開発戦略
- ③都市のサステナビリティと都市再生
- ④広域合併都市の地域経営と空間管理など

明城大学 福島先生 ①

### プレゼン用資料1

#### 飯田との関わりや活動について

- ・飯田市が主催する飯田市フィールドスタディに3年連続して、ゼミとして参加しています。飯田市のフィールドスタディは、飯田市の地域づくりを多面的に学べることや、他大学の学生との合同学習を通じて、学生の貴重な学びの機会となっています。
- ・ゼミ生の中には、飯田市の環境政策やソーシャルキャピタルなどをテーマに卒業論文を書く学生もでてきました。
- ・ゼミの卒業生には2名の飯田出身者がいます。

明城大学 福島先生 ②

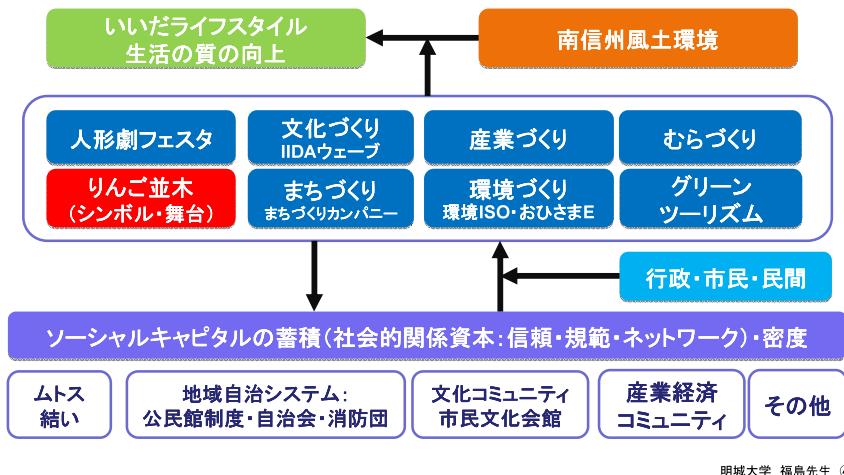
### プレゼン用資料2

#### 飯田の評価や価値について

- ・ソーシャルキャピタルが豊富に蓄積されている。それを土壌として、様々な機会を生かし、ユニークな文化活動・イベント・地域づくりの取り組みが、行政・市民・民間レベルで展開されている。
- ・それが飯田型のライフスタイルを生み出し、生活の質を高めている。
- ・持続可能な地方都市圏づくりへの多面的な取り組み

明城大学 福島先生 ③

## ソーシャルキャピタルの蓄積といいだライフスタイル



明城大学 福島先生 ④

## プレゼン用資料3

### 飯田における今後の関心事項について

- ・飯田地域政策の中長期的な評価  
持続可能な地域モデルとしての「飯田モデル」の理解・評価・他地域への適用の可能性検討
- ・飯田におけるソーシャルキャピタルの蓄積・形成・発展のプロセス
- ・上述のテーマについて調査研究を行い、その研究成果を学輪IIDAIの学びの場や政策的含意として市・地域に還元したいと思います。

明城大学 福島先生 ⑤

## プレゼン用自己紹介シート

平岡 和久

立命館大学 政策科学部教授

### ご自身の研究領域などについて

- ・専門:財政学・地方財政論
- ・研究領域:地方自治、地方財政、自治体行財政、地域経済、地域問題、地域政策、公共政策
- ・最近の研究プロジェクト:「都道府県の機能」、「新しい時代の地方自治と地方財政」、「分散型被災者支援システム」
- ・個人研究:一括交付金化の分析、震災復興と財政問題など

立命館大学 平岡先生 ①

## プレゼン用資料1

### 飯田との関わりや活動について

- ・南信州へは9年ほど前から小規模自治体の自立計画と財政の調査で訪れる。
- ・数年前からゼミのフィールド調査で南信州、飯田市にお世話になる。調査報告会も開催
- ・南信州広域連合と政策科学部の学術交流協定にもとづき、大學生が研究インターン(約1ヶ月間)でお世話になる。
  - \*モンゴルからの留学生:日本の教員研修制度について飯田市教育委員会にお世話になり、修士論文につなげる
  - \*その他、水道環境部、保健福祉部、産業経済部でもお世話になり、修士論文につなげる

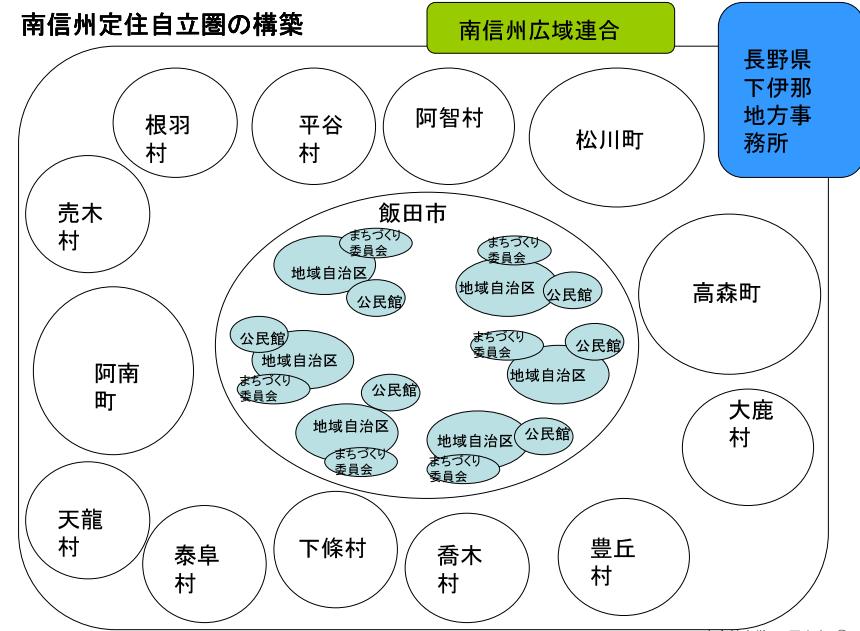
立命館大学 平岡先生 ②

プレゼン用資料2

## 飯田の評価や価値について

- ・ 地方自治論・地方財政論の視点からみれば、重層的な自治を維持・構築しているところが重要
  - ・ 飯田市における地域自治区、地区公民館、まちづくり委員会といった自治体内分権、狭域自治
  - ・ 南信州における小規模自治体13町村の存在と飯田市との連携、南信州広域連合、定住自立圏、長野県下伊那地方事務所といった広域自治、広域連携、広域行政組織の存在
  - ・ 住民の学習と参加の多様な組織と活動の歴史的蓄積
  - ・ 地域を維持・発展させるための総合的なビジョンと取り組み

立命館大学 平岡先生

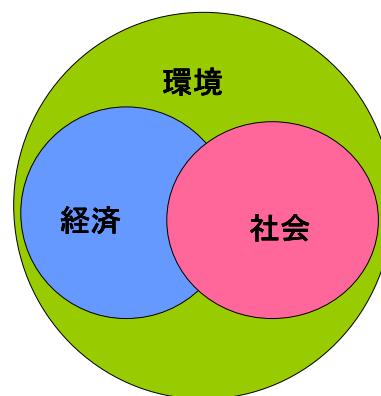


立命館大学 平岡先生 ④

## プレゼン用資料3

## 飯田における今後の関心事項について

- ・ 飯田・南信州における「維持可能な社会」を目指す取り組み(環境、経済、社会)
  - ・ 持続可能な地域経済の確立
  - ・ クリーンエネルギーによる自給戦略
  - ・ 重層的自治の展開



立命館大学 平岡先生

## プレゼン用自己紹介シート

立命館大学 政策科学部  
教授 森 裕之

#### ご自身の研究領域などについて

- ・財政学(とくに地方財政)
  - ・公共事業
  - ・環境政策
  - ・地方自治

立命館大学 森先生 ①

## プレゼン用資料1

### 飯田との関わりや活動について

- ・2003年頃から南信州地域の自治体研究をはじめる。
- ・飯田市の環境政策に関する研究
- ・関西(とくに大阪)の自治体職員、議員、住民のフィールド調査や現地視察
- ・学生のフィールド調査

立命館大学 森先生 ②

## プレゼン用資料2

### 飯田の評価や価値について

- ・日本で最もサステイナブルな都市
- ・南信州の母都市(自治体間協働)
- ・優れた環境政策
- ・良質な産業集積
- ・薫り高い文化
- ・高い自治と相互扶助の意識
- ・伝統的・規範的な教育実践

立命館大学 森先生 ③

## プレゼン用資料3

### 飯田における今後の関心事項について

- ・日本・アジア最高の「サステイナブル・シティ」の実践モデルを発信する。
- ・経済(産業)、社会、環境、文化をオリジナルに統合することで、21世紀における都市像をつくりだす。
- ・国内外に対して飯田の都市政策の実践とその評価に関する論文等を発刊していくことで、飯田のプレゼンスの国際的確立を目指す。
- ・多様な内発的発展の担い手づくり。

立命館大学 森先生 ④

## プレゼン用自己紹介シート

立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部  
銭学鵬 助教

### ご自身の研究領域などについて

- ・都市・地域計画専攻、システム工学
- ・持続可能な開発に関する社会システムの研究:政策、財政、マネジメント、計画方法論等
- ・産業生態学(産業エコロジー)に関する産業システムの研究:環境技術、産業発展等

立命館アジア太平洋大学 銭先生 ①

## プレゼン用資料1

### 飯田との関わりや活動について

- ・ 2009年2月に立命館大学主催の第2回調和(和諧)社会総合モデル構築に関する日中シンポジウムで牧野市長の講演を拝聴
- ・ 2010年8月飯田フィールドスタディー (FS持続可能なまちづくり:長野県飯田市における調査、参加学生5名)
- ・ 2011年1月IIDA学会
- ・ 2011年8月飯田フィールドスタディー (FS持続可能なまちづくり:長野県飯田市における調査、参加学生12名)
- ・ 2011年10月共通カリキュラム等PJ会議

立命館アジア太平洋大学 銀先生 ②

## プレゼン用資料2

### 飯田の評価や価値について

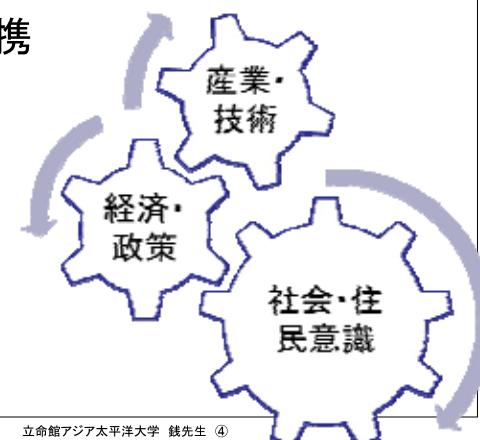
- ・ 政策の実験場  
(経済、環境、観光、人材など)
- ・ 環境モデル都市  
(環境産業、環境教育、環境基盤、環境計画など)
- ・ 住民自治

立命館アジア太平洋大学 銀先生 ③

## プレゼン用資料3

### 飯田における今後の関心事項について

- ・ 行政・産業・社会の連携
- ・ 大学・研究者の連携
- ・ 飯田・世界の連携



立命館アジア太平洋大学 銀先生 ④

## 1. 自己紹介

和歌山大学観光学部教授・学長補佐(キャリア・サポート担当)  
小畠 力人

### 教育研究領域

高等教育(大学の研究)大学改革・入試改革  
観光学:観光振興・地域再生・人材育成  
キャリア教育・キャリアサポート(就職相談・指導)  
経歴

関西文理学院(予備校)進学指導部長等  
立命館大学入試部長・中等教育部長・教学次長  
和歌山大学副学長(教育・学生・入試・国際交流)  
観光学部教授(副学部長)

和歌山大学 小畠先生 ①

## 2. 飯田との関わりと活動など

### **飯田と和歌山大学観光学部**

- 国立大学初の観光学部設置にあたって  
　　飯田との交流協定を締結
- 毎年、飯田フィールドスタディに学生派遣
  - 飯田をフィールドとする研究の推進
  - 飯田プラネタリュームと和歌山大学
    - 学輪IIDAJへの参画

和歌山大学 小畠先生 ②

## 3. 飯田との連携の価値

### **飯田は「学びの宝庫」です。**

「観光振興」と「地域再生」を学ぶ学生にとって、  
絶好のフィールドです。  
 りんご並木⇒中心市街地・人形記念館⇒  
 ごんべい邑(市長講演・セミナーと食事)  
 農家民宿(宿泊体験)⇒ワーキングホリデー  
 太陽光発電・公民館運動  
 天竜峡観光・南信州観光公社  
 等々

和歌山大学 小畠先生 ③

## 4. 飯田との連携のこれから

### **中長期のインターンシップ**

**研究・教育拠点**  
**共同利用施設or大学院大学**

**観光・地域系大学・大学院の**  
**コンソーシアム(大学連携組織)**  
 +
   
**飯田との連携**

和歌山大学 小畠先生 ④

## プレゼン用自己紹介シート

**和歌山大学 観光学部**  
**教授 廣岡 裕一**

### **ご自身の研究領域などについて**

- ・旅行業法制
- ・旅行契約
- ・旅行取引

和歌山大学 廣岡先生 ①

## プレゼン用資料1

### 飯田との関わりや活動について

- ・夏季フィールドワーク飯田2007、2008の実施、参画
- ・飯田大学連携会議の参加
- ・「南信州観光公社の機能と役割」調査・研究

和歌山大学 廣岡先生 ②

## プレゼン用資料2

### 飯田の評価や価値について

- ・南信州観光公社は、着地型旅行の成功している事例が少ない中で、成功している事例と捉えられる。この組織が、設立され維持されている環境は、評価されるものであり、それへの関心を導くことは飯田の価値といってよい。

和歌山大学 廣岡先生 ③

## プレゼン用資料3

### 飯田における今後の関心事項について

- ・飯田には、事業、研究等の先進モデル、事例となる対象が多くある。先に、南信州観光公社で観光資源化できた対象以外にも、これらの蓄積を国内外にいかに発信し、資源化できるか、そのモデルの構築に关心を持つ

和歌山大学 廣岡先生 ④

## プレゼン用自己紹介シート



和歌山大学 観光学部  
教授 尾久土正己

### ご自身の研究領域などについて

- ・本来の専門は天文学  
はやぶさの地球帰還を生中継しました
- ・兵庫、和歌山での自治体天文台の職員時代  
地域とITや科学教育に関心
- ・観光学部での研究内容  
科学(宇宙)観光、超高精細・超臨場感映像を使った観光映像、  
観光視点からのミュージアムマネジメント



和歌山大学 尾久土先生 ①

## プレゼン用資料1

### 飯田との関わりや活動について

#### ・牧野市長が富山でサラリーマン時代

Smart Valley Japanの活動で出会う

ドイツで皆既日食があったときには一緒に日食中継を

#### ・和歌山大学と飯田市の包括協定の仲人？

当時の小田学長を飯田に連れてくる

観光学部の学生のフィールドワークでは他の先生にお任せ

#### ・美術博物館のプラネタリウムのリニューアル

本学で研究開発中のシステムを提案、採用

現在、共同研究でコンテンツ制作中

和歌山大学 尾久土先生 ②

## プレゼン用資料2

### 飯田の評価や価値について

#### ・博物館が面白い

優秀で幅広い専門の学芸員を配置

地域のネタ(自然、民俗、美術...)が豊富

多数の「市民学芸員?」と連携

一例:しらびそクレーターの発見→

地域のブランディングの元ネタを発掘!



和歌山大学 尾久土先生 ③

## プレゼン用資料3

### 飯田における今後の関心事項について

#### ・美術博物館が飯田の将来をデザインする！

・今の段階でこれだけ面白い博物館

・地域を一番よく知る部署

・資料収集、保管、研究、展示の先に、地域のデザインを

・企画セクションの一段階前の機能持てるのでは？

#### ・攻めの姿勢で市内外に打って出れば地域再生、観光の核になる

・「地域が文化を支える」から

・「文化が地域をデザインする」へ

和歌山大学 尾久土先生 ④